

# Eureka V

六年制通信 No. 5 平成 29 年 5 月 13 日 (土) 号

## キケロー選集より

古代ローマの政治家キケロー(Cicero 106-43 B.C.)の言葉には現在でも人口に膾炙したものが多くですね。いわく「食べるために生きるのではない、生きるために食べるのだ」、これなどは聞いたことがあるでしょう。確かにこの言葉は人生の一つの真理に違いないと思いますが、こういう古人の言葉に出会い、なるほどと思ってしまう時、いつも考えてしまうことがあります。キケローが今から二千年も前に言っていることを現代に生きる我々がその通りだと納得するということは、それは例えば聖書の箴言あるいは二千五百年以上も前の孔子の言葉にも同じことが言えるわけですが、人の世の営みに流れる真理というものは、生活様式の著しい変化にもかかわらず、とっくの昔にわかっている、何千年もの間、全く変わらないということです。つまり、文明は驚くほどに進化しても私たち人間の心は変わっていないということです。前にも書いたかもしれませんが、エジプト文明では「最近の若い者は…」という老人の嘆きが発掘されたタブレットに残されていたと言われていました。今でも老人たちは同じことを言いますよね。現代文明は当時からすれば人知を超えるほどに発達を遂げ、便利さは想像すら出来ないでしょう。医学の進歩は平均寿命を伸ばし、人類は月にさえ降り立っています。一方でこのような技術の進歩を果たしながら、人の心を打つ言葉はすでに文字の生まれたころに生きて我々の祖先によって残されている。こう考えるといつも不思議な感覚に襲われます。しかし、だからこそ、どんな時代であれ古典を読む意味があるのだと言えますね。

キケローの残した言葉で他に好きなのは「食べ物を最高に美味しくするのは飢え、飲み物のそれは乾きである」と「書物なき部屋は魂なき肉体である」ですが、これはことある毎に皆さんに伝えたいですね。二千年前の言葉ですが、なるほどと思いませんか。後者は読書の勧めです。文字の発明以降、人類の遺産はすべて書物の中に残されています。これに親しむことが人類の歴史に触れることです。二千年前、学問といえば哲学であり、文法であり、音楽であり、数学でした。そんな時代から哲人たちは読書の勧めを繰り返しています。前者は古今東西同じ趣旨の言葉があります。馬に水を飲ませるには喉を乾かせることだ、などは君も聞いたことがあるでしょう。もちろんこれは比喻であって、実際には若者の向学心についての真理を述べたものです。学校の先生はきっと全員、飲みたくもない馬に水を与えてもダメだと、経験的に知って

いることでしょう。ハングリー精神は何も格闘技にだけ通用するわけではないということです。腹の減っていない人間が自ら食物を求めることはなく、無理やり食べさせても吐いてしまうだけです。聖書にあるように「求めよ、さらば与えられん」も真理ですね。まず、求めよ、そう言っているのです。

勉強についてキケローが君たちにアドバイスをしているわけではないのですが、記憶については彼もまた関心の高かったことはわかっています。キケローには多くの著述があって翻訳も多くあります。政治家、弁論家として法廷でも活躍した彼は論争に勝つために必要なこととして次の点を指摘しています。それは、法律を熟知していること。過去の判例を覚えていること。歴史的な流れをよく知っていること。相手が過去に何を言ったかを覚えていること。(この最後のところはうろ覚えです。申し訳ない)したがってと言うべきか、彼もまた記憶というものに関心が高かったわけです。他人の墓碑銘を読むと記憶をなくすという言い伝えについて触れている(たしか「老年について」だったと思う)というのは関心がある証左でしょう。

さて、では彼自身は記憶力の向上ないし維持をどのように考えていたか。キケローの表現によれば記憶は場所と結びつく、のだそうである。自分のよく知っている場所をイメージし記憶を定着させ、その場所を一つ一つ引き出しとして頭に保管するようにせよ、そう言っているのだがそれ以上詳しくは書いていません。キケローを自分なりに解釈するのは気が引けるが、記憶を場所と結びつけるというのは、おそらく記憶を視覚的に整理しておけという意味ではないかと思います。子供のころのことを目を閉じて想像していると、何となく思い出がぼんやりしているが、当時の写真を見てもっと鮮明に記憶が蘇ることがあります。あのイメージに近いのではないのでしょうか。うまく説明できないのが残念ですが、あの時あの場所で習った、あの机で辞書を引いた、あの黒板の風景、あの時の友人の顔、そういった視覚のすべてが記憶の定着に役立つのは確実だと思います。キケローは視覚の重要性を強調していますが、君たちは別に他の感覚を使ってもいいのですから、匂いの記憶なども使って覚えていくといいでしょうね。キケローが視覚なら私はこうして定着させてやる、と自分なりの方法を作ってみて下さい。

#### 今週のおすすめ

連休中に「聖の青春」のDVDを借りて観ました。だいたい映画は原作を越えないと言われていますが、私にはこの映画もちょっと残念でした。大事なエピソードが飛ばされている気がしてね。ただ、感心したのは役者さんです。映画の後半には主人公そのものに見えてきましたからね。すごい力量だと思いました。

今回は、私自身が原作より良かった、あるいは五分五分かなと思った映画の原作を二つ紹介します。

- ・小川洋子 『博士の愛した数式』(新潮文庫) 私の好みですがこれは映画の勝ち。
- ・浅田次郎 『地下鉄に乗って』(集英社文庫) これは引き分けかな。

